５、物故者を偲ぶ。

こころざし半ばで逝かれました同期の６人の仲間への追悼文です。

（１）浅田　充浩氏に捧げる。

①川阪　益造

他の諸兄の場合と異なり私の場合は前の入学年度からのずり下がりがようやくこの９期で止まったという関係なので、在学中については殆ど想い出はない。浅田兄とのつながりは、ほとんどがこのND９会を通じてのものである。

永年お世話になったＯ社を定年退職後、私は紹介されたシステムハウスにしばらく籍を置いたが、そこにはご縁がなく、一時は新聞広告を見て職を探すようなこともあり、身の置き所がなくたいへん困っていた。1996年夏に、ＮＤ９会で西伊豆土肥温泉へ行ったときに、浅田兄（以下、彼という場合があります）は、(株)近計システム社長の要職にあったが、私は窮余の行動として、彼に求職のお願いをしてみた。普通の人であれば、「考えとくわ」で終わるところであるが、彼は 帰阪するや直ちに近計システムの役員会を招集し、私を工場長付スタッフとして採用するよう特例として決定していただいた。

ここから、私の第二の人生が始まるのである。同社で私はISO9001品質マネジメントシステムの事務局員をつとめさせていただいた。彼が最高責任者、私が事務局員として、品質管理責任者の方を交えて、いろいろと議論をしたものであった。同社では、このほかにクレーム処理についても担当したが、私にとってたいへん有用な時期であった。近計システムは、もと近畿計測器といい、電力会社の電力系統監視及び記録システムで高いシェアを誇る技術先行型の企業である。同社で元府大学長の故畑先生が、監査役をしておられ、かねがねマネジメントを実践したいという希望を持っていた浅田兄に紹介したことがきっかけとなって彼の社長就任が実現したのである。

私は、同社に約２年お世話になったが、経済環境の悪化に伴い勇退することになった。その代わりに紹介してもらったのが、私の現勤務先の京都電測(株)で、私はそこで既に13年も在職し、私の第二の人生の大きな部分を占めている。これは全く、浅田兄の友情とご厚意によるもので、私にとって大の恩人である。

彼は、たいへんな愛妻家であり、また非常な努力家でもあった、難関である技術士（電気）の資格を、早くに取得されており、このことが企業経営にも役立つたものと信じている。

彼は同窓会活動にも大きな功績を残している。中百舌鳥電気ｸﾗﾌﾞ会長としても貢献されたが、ＮＤ９会にも幹事世話役として、何回も率先して当たられ我々の親睦と団結に大きな役割を果たされた。またＮＤ９会の名付け親でもあった。

彼は、2006年春頃から原因不明の難病に罹り、療養中であった。私は伊勢市の病院にお見舞いに行ったが、病苦のためかなりやつれておられた。その１週間後に彼は、志半ばにして帰らぬ人となられた。　お葬式は、内輪でお弔いされると言うことで辞退されたので、お見送りできなかったことは　とても残念なことであった。

合掌